

第3回神戸市海洋産業振興に関する有識者会議 議事要旨

日 時：2023年10月4日（水）14:00～16:00

場 所：神戸市役所1号館24階 1243会議室

議事要旨：ゲストスピーカーによる海事分野の新たな技術開発・ビジネス化の事例紹介と、神戸港中期計画および本市のビジョンを中心に、これまでの議論を振り返りながら、今後、海洋産業の振興に向けて本市が取り組むべき方向性について意見をいただいた。

○ゲストスピーカー

三島智和氏（准教授）

共同研究者 頼 慶明氏

神戸大学大学院 海事科学研究科

台湾国立中興大学

マリンエンジニアリング講座

海洋政策科学部 海洋応用科学領域

○主な意見

【神戸港】

- ・ 神戸港を、インフラとしてだけでなく、新たな付加価値をつけて産業に結び付けていくためには、様々なアイデアが生まれる仕組みが必要なのではないか。
- ・ コンテナ取扱量だけでなく、例えば環境負荷が少ないものの取扱量なども港の評価指標にする、といったことも検討できるのではないか。

【産学連携】

- ・ 自治体ができることは「場所」の提供。大学などへ普段は入れない場所を提供するといった提案が求められる。
- ・ 港のすぐ近くにオープンラボがあれば、街中ではできないことができる。
- ・ コーディネータの存在も重要。海の分野だけでなく、異分野を紹介できる人がいれば大学側はありがたい。弁理士などへ速やかにつなぐなど、あくまでもコーディネータ、手助けする機能が働くのが理想。

【若者の参入を呼び込む仕組み】

- ・ 例えばコマーシャルダイバーの不足に対して、プレジャーダイバーからの参入を促す仕組みとして、トレーニングできる場所をつくる、マッチングアプリでつなげる、ボランティア休暇や副業など趣味を活かす制度を活用するなど、これまでにないやり方が考えられるのではないか。
- ・ 環境意識の高い学生などに、神戸の海洋環境調査ができるフィールドを提供し、データ収集、研究、情報発信してもらうのも一つではないか。
- ・ 若者の起業を支援するスキームも必要。船やファッションなど神戸の身近な海洋ビジネスに、IT技術のある若者をつなげる手伝いができるとうまい。結果的に若者の定着にもつながる。